

研究に関するご協力をお願い

福島県立医科大学消化器内科学講座では、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における診療情報の利用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2025 年 3 月

福島県立医科大学医学部消化器内科学講座 阿部 和道

■ 研究課題名

肝細胞癌に対する局所療法の肝予備能と予後へ与える影響について検討するための後ろ向き観察研究

■ 研究期間

2025 年 4 月 ～ 2030 年 3 月

■ 研究の目的・意義

原発性肝癌は本邦で死亡者が年間 3 万人にのぼる悪性腫瘍であり、肝細胞癌は原発性肝癌の中で最も多い悪性腫瘍です。肝細胞癌に対しては外科的な肝切除、ラジオ波焼灼術(RFA)、そして肝動脈化学塞栓療法(TACE)といった局所への治療(局所療法)が主な治療方法として実施されていますが、肝細胞癌は再発率が多いため複数回の局所治療が行われることも少なくありません。特に局所療法である RFA と TACE は患者への身体的負担や、肝臓の機能を表す肝予備能への影響が比較的少ないことから肝切除が適応とならない方に対しても実施されています。また進行した肝細胞癌であっても薬物療法に RFA や TACE などの局所療法を併用することで良好な治療効果が得られることがあり、RFA や TACE などの局所療法の重要性がより増しています。

肝臓の機能を表す肝予備能は肝細胞癌患者の治療方針の決定に重要な因子です。RFA や TACE などの局所療法後に肝予備能の低下をきたすことや、低下した肝予備能が予後不良と関連することが報告されています。しかし肝細胞癌に対する RFA、TACE などの治療方法と治療後の肝予備能がどのように関連するのかは未だ明らかではありません。本研究では肝細胞癌患者における局所療法の違いと、肝予備能や治療後の経過との関連を明らかにすることを目的としています。本研究によって治療法の違いがどのように肝予備能へ影響するか理解できるようになることで、より治療時の負担軽減を目的とした肝細胞癌の診療を行うことができるようになる可能性があると考えられます。

■ 研究対象となる方

研究対象は 2004 年 1 月から 2024 年 12 月の期間に福島県立医科大学附属病院消化器内科で RFA または TACE により加療された肝細胞癌患者が対象です。

■ 研究の方法

対象となる方の診療情報から年齢、併存疾患、生化学検査、画像検査、治療内容、肝細胞癌に関する画像所見、治療後どのような転帰をたどられたか、そして肝予備能の推移などの項目についてデータを収集します。

■ 試料・情報の利用を開始する予定日

2025年4月1日

■ 研究組織

この研究の研究事務局は福島県立医科大学消化器内科学講座であり、研究責任者は消化器内科学講座 阿部和道です。集められた情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 竹之下誠一であり、それらの情報は福島県立医科大学消化器内科学講座で利用し解析を行います。

■ 他の機関などへの試料・情報の提供について

他の機関などへの試料・情報の提供はありません。

■ この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。

また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取り消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

公立大学法人福島県立医科大学医学部学消化器内科学講座 担当： 林 学

電話：024-547-1202 FAX：024-547-2055

e-mail：m884884@fmu.ac.jp